

現

書家
田坂州代

Kuniyo Tasaka



写真左より 木乃下真希・山下洋輔・渋谷和生・上妻宏光・坂田明・吉野弘志
愛知万博舞台用巨大書作品(実寸大) Photography: Mitushi Takeshita

言葉では伝えきれない
空気感まで描き出す書

企業・商品のブランドロゴ

書籍・映画・演劇の題字

経営者・著者・士業等の方々への

筆跡のご提案と美技指導

あなたのお仕事や、

あなたご自身を、

「書」を通して

「心」に伝え、

その価値を高める

お手伝いをさせていただきます。

WEB: www.kuniyotasaka.jp

MAIL: ommarc@kuniyotasaka.jp

現



お問合せ WEB他



田坂が書くときと当たる

愛知万博の舞台用巨大書作品を7.2×1.8メートルの幕に原寸で毛筆書きしたのをはじめ、「手塚治虫浮世絵」「司馬遼太郎原作 燃えよ剣 明治座公演」など書籍・映画・舞台の題字や、企業・商品のロゴを担当。また、帯や着物、扇子、名刺、挨拶状など身近なものも。多くの人に書の魅力を伝え楽しんで頂くと、国内のみならず海外でも活動中です。

伊東株式会社「夏めく」



伊東株式会社「朝顔」

オーダーメイド
筆跡ブランドイング

「ご職業やお立場に適した「ふさわしい印象」の筆跡を手に入れるコンサルティング。単なるきれいな文字ではなく、「誠実さ」「頼りがい」「豊かな感性」など、あなたをアピールする筆跡とそのノウハウを指導致します。筆跡は後天的に身につけたものの、トレーニングすれば改善できます。ご自分の筆跡にお悩みの方、まずはご相談ください。



実演

書作品制作のほか、パフォーマンスとしても活躍。二〇一〇年に地歌（伝統的な三味線音楽の一種）の演奏家とコラボ公演したほか、二〇一一年の演劇公演では、登場人物として劇中で書を揮毫しました。二〇一二年、パリ開催「ジャパンエキスポ」では約三メートルの大書を実演し、二〇一四年には日本初の早朝フェスでも約十五メートルの大書実演。はか多数の実績があります。

ごあいさつ

書は「言葉」を視覚的に表現した芸術です。古代の絵文字から始まり、長い歴史のなかで、篆書、隸書、草書、行書、楷書「書」という形で、目から心へと様々な書体が生まれました。私、田坂もその歴史の末端とも最前線とも言える現代で、創造に挑む一人です。

言視化

言視化とは、「言葉を見える化」すること。依頼主様が顧客に伝えたいメッセージを、「書」という形で、目から心へと訴える作品に仕上げています。

共創

書家に依頼するとき、「どう頼んだらよいかわからない」、「書家の書風を押しつけられるのでは」と不安を感じるなど

「書家」と聞くと、多くの皆様が書道教室の先生を思い浮かべますが、私は「伝達」をテーマに、想いを伝える視覚的表現作品、書籍、映画、舞台の題字、企業ロゴや商品ロゴ、社章などの作品を提供しております。

依頼主様との「共創」を大切にしております。目的に応じた適切な書きぶりを提案する書家もいると、安心して「依頼頂いております。」

略歴

日本大学芸術学部卒、同芸術研究所修了。高等学校書道科教員免許、高等学校・中学校国語科教員免許、伝統文化コーディネーター検定上級取得。日本演劇学会会員。二〇一七年、慶應義塾「福澤諭吉記念文明塾」講師。二〇一九年、慶應義塾CIC「Make Great Ideas」講師。二〇一九年、首都大学東京（都立大）オープンユニバーシティ講師。

